

令和5年度

相生中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ICTを活用した授業の実践
- 学んだことを次の問いに生かせる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 村上 綾菜	委員	1学年主任	山村 美奈
		2学年主任	中本 亜希子
		3学年主任	角 義和
		教務	井馬 学

校長

濱田 理絵

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

生徒、教員のアンケートにより、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○知識・技能を身につけようと、一生懸命に努力することができる。 ●身につけた知識を活用してさらに学習を深めることに課題がある。	・身につけた知識や技能を、生徒同士が伝え合い、学習を進めることができる。 ・1つの学びから、次の学びを発見し、学習を進めることができる。	・明確な発問の工夫をしたり、ICTを活用したりして授業を充実させる。 ・学びを次に生かせるように、授業の振り返りを工夫する。	・どの教科においても、授業の振り返りの時間を確保する。 ・生徒の学習状況を確認し、授業の見直しをする。	・ICTを活用し、生徒同士の意見交換の場面が増え、互いに学び合う協働学習を通して学びを深めることができた。	・校内研修を通して授業の振り返りについて考え、その方法などを教員間で共通理解を図りながら実行できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表などの準備をしっかりと行い、自分の意見を伝えることができる。 ●相手の意図を捉えながら自分の考えをもったり、考えを深めたりすることに課題がある。	・ICTを積極的に活用して、自分の考えを深めたり、発表したりできる。 ・学校生活の様々な場面で、友だちの意見を踏まえて自分の意見を発表できる。	・ICTなどを活用して、自分の思いや考えを書く場面を増やしたり、他者の意見を取り入れる場面を増やしたりする。 ・異学年集団での学びの機会を増やし、積極的な活動ができるようにする。	・異学年集団での話し合いをする機会を設け、継続して活発な話し合いができるようにする。	・ICTやホワイトボードなど、様々なツールを活用する中で、自分の考えを発信する機会を増やすことができた。 ・異学年集団での活動をする中で、互いの意見交換ができるようになってきた。	・課題解決に向けて、活発な生徒同士の話し合いを進めていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業の目標や課題に対して、真面目に取り組むことができる。 ●目標や課題に対して、自ら粘り強く取り組むことに課題がある。	・各教科の授業において、粘り強く課題解決しようとする。 ・家庭学習を計画的に行い、その取組を振り返ることができる。	・次の学びにつながるよう振り返りの時間をもつ。 ・家庭学習の計画を定期的なたて、自分の取組を次の学習に生かすことができるようにアドバイスを行う。	・課題だけでなく、家庭学習を計画的に行うことができるよう、生徒会・専門委員会などの活動と連携して取り組む。	・授業での課題に対して、計画的な目標をもち、記述したり、発表したり、振り返る時間をもつことで自分なりに課題解決に向けて取り組む姿が見られた。	・家庭学習の計画や振り返りについて、生徒会・専門委員会の活動と関係させるなど、生徒が主体となるようにしていきたい。

令和5年度 学力向上ロードマップ

